

Roundtable for Yamaguchi-Busan-Hakata Transborder
Dialogues with Special Reference to Tsushima Island as a Link

対馬がむすぶ山口・プサン・博多： ボーダー研究と異文化共存の実践ワークショップ

◆国と国、地域と地域との間の「境」は、古代から現代までヒト・モノ・情報の行きかう接点であり、新しい文化を生み出す接触点にも、対立・紛争を生み出す接触点にもなってきました。境界線に係わる諸課題を読み解くボーダー研究や、国境を越えて／見据えて行う国境ツアーの知見をもとに、今回、新たに行った山口発プサン・対馬・博多の国境モニターツアーから見える世界についてCOCセミナーを開催します。多くの方のご参加をおまちしております。

◆タイムテーブル

13:00 - 13:10 開会の挨拶と主旨説明 安溪遊地（山口県立大学国際文化学部教授）

13:10 - 14:10 基調講演1 アダム・セリグマン（ボストン大学教授、山口県立大学客員教授）

“Living with Difference: A proposal for constructing a new CEDAR program in Transborder East Asia”

（違いを保ってともに生きる：東アジア国境地域での新たな CEDAR プログラム = このチラシの裏面参照 = の提唱）

14:10 - 15:10 基調講演2 岩下明裕（九州大学 アジア太平洋未来研究センター教授・

北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター教授 クロスアポイントメント）

「ボーダーツーリズム：九州・山口から韓国・東北アジアを結ぶ」

15:10 - 15:30 コーヒーブレイク

15:30 - 16:20 ラウンドテーブル

「対馬がつなぐ山口・プサン・博多の対話

——若者・市民から広げる異文化理解・寛容性・異文化共存」

16:20 - 16:30 まとめと閉会の挨拶 岩野雅子（山口県立大学副学長）

※セリグマン教授の基調講演は英語（訳文配布）、その他は日本語で行われます。



アダム・セリグマン教授



岩下明裕教授

日時：2017年 3月 24日 金 13:00～16:30

場所：九州大学 西新プラザ会議室 A（福岡市早良区西新 2-16-23）

入場
無料

主催：公立大学法人山口県立大学COC(地(知)の拠点事業) 共催：九州大学アジア太平洋未来研究センター

協力：ABSj (Association for Borderlands Studies Japan Chapter)・境界地域研究ネットワーク JAPAN・NPO 法人国境地域研究センター・人間文化研究機構「北東アジア地域研究推進事業」北大スラブ・ユーラシア研究センター拠点

◆私たちとはまったく違う人たちと、平和に共存できる世界はどうしたらつくれるのでしょうか。

想像してみてください。イスラエル反対のデモをイギリスで組織し、ガザ救援を叫んでいたイスラム教徒の女性は、CEDAR プログラムでシオニストとともに暮らして、初めはどうしたらいいかわからない板挟みになって困惑していましたが、2 週間の終わりには、「大嫌いな人たちとも友だちになれることを学んだわ」と言いました。

考えてみてください。アフリカからやってきた保守的なカトリック信者が、インドネシアで非常に信心深いトランスジェンダーのイスラム教徒たちと向き合ったときの人間的かつ神学的な困惑を経験したあと、国に戻ってこうした違いをもつ人々が会おうという取り組みを始めたのです。

こんな例もあります。イタリアの女性教員は、イスラム教徒、正教徒、プロテスタント、ユダヤ教徒とともにブルガリアの合宿で 2 週間を過ごしたあと、ローマに帰って自分の学校の多文化教育のプログラムを根本的に見直すことを提案しはじめました。文化や宗教の違いに蓋をするのではなく、生徒たちの家族が、それぞれ属しているたくさんの多彩なコミュニティと出会えるようにするという提案です。

2003 年にボスニアとヘルツェゴビナとクロアチアで 2 週間のプログラムを行ったのが、CEDAR の具体的な始まりです。

宗教的に異なるさまざまなアイデンティティをもった人々がともに暮らし、違いがあることを認め、「他者」から学ぶというプログラムでした。それ以来、毎年ブルガリア、イギリス、イスラエル、インドネシア、ウガンダ、アメリカなどで毎年開催してきました。のべ 50 ヶ国から学生、社会人、宗教指導者と社会のリーダーたち合計 500 人が参加しました。



宗教間対話や紛争解決プログラムはたくさんありますが、それらは互いに共通点があることを強調して、違いを目立たないようにさせようとする傾向があります。これに対して、CEDAR は、最優先課題を「違いを正面からとらえること」に置いています。実際、CEDAR の取り組みは、参加者が自分と他者の違いに気付くというところがスタートになります。そして、違っていてもなんとかいっしょに生きていく方法を身に付けることを学ぶのです。2 週間の濃密なプログラムを通して、参加者は見慣れぬ宗教儀式を体験し、自分とはまったく違う信仰とまさととくみあいをして、自分がそれまでの人生で当然だと思っていたことを再検討し、そしてなんとか時間と空間を共有する方法を見つけ出すのです。講義、見学、実習を通して、仲間たちはついには自分のアイデンティティはきちんと保ちながら、互

いの違いを大切にすることができるようになります。他者との大きな違いを生み出しているアイデンティティというものは、誰にとっても大切ですから、異なるコミュニティに橋をかけるこうしたプログラムは、共通点がしに留まらず、違いを大切にするものでなければうまくいきません。

最近では、CEDAR に参加した経験を活かし、宗教指導者や研究者が、CEDAR と同じ手法を使ったプログラムを東アフリカ、南アフリカ、カナダ、バルカン諸国などに展開しています。その結果、CEDAR は、グローバルなネットワークを先導するものとなっています。開始から 10 年の節目を迎え、今後は当初の宗教的な違いに注目することに留まらず、さらには国、民族、言語、性などの違いにも光をあてることを目指しています。

自分とは違う「他者」に、実践的かつ建設的な関わりをもつことで、CEDAR プログラムを経験した参加者たちは、プログラム終了後も、国にもどって自分の足下にその経験を応用しようとするようになるものです。その結果、参加者の地元に住む、共通点をもたない集団どうしが、互いをよりよく理解して、お互いに寛容になれる道が開けてくるのです。

<http://www.cedarnetwork.org> より

安溪遊地訳

CEDAR (Communities Engaging with Difference and Religion) は、文化や宗教の違いを生きる人々が 2 週間をともに過ごすことで、違いが憎しみを生まない「筋金入りの寛容」を実践できる人を育てる平和のプログラムです。

●お問合せ・お申込み

山口県立大学
異文化交流論研究室

E メールでお願いいたします。
iwano@fis.ypu.jp

●アクセス

九州大学西新プラザ会議室 A
〒814-0002
福岡市早良区西新 2-16-23
<http://nishijinplaza.kyushu-u.ac.jp/>

「西新」駅下車、
⑦番出口より徒歩約 10 分

